

(11) 双子の母親の育児ストレスに関する研究

—乳児期の双子育児をする母親の経験から—

川崎医療福祉大学大学院 保健看護学専攻 修士課程 ○村上 淳子

兵庫医療大学 看護学部 鈴木江三子

川崎医療福祉大学 保健看護学科 中新美保子

**【要 旨】**

双子の出産率は、2008年に出産1000に対し10.3回となり、1980年以前の約1.6倍となった。この増加は不妊治療の普及に関連があると指摘されている。双子の妊娠・出産は母体への影響が大きく、出産後の育児についても母親の負担が大きいことが認識されている。さらに、双子の母親は様々なストレスが関連して、虐待のリスクも高いことが報告されている。しかし、双子の育児支援は十分になされているとは言えない現状がある。

そこで本研究は、育児の負担が最も大きいと考えられる乳児期までの双子の母親に焦点をあて、母親の育児ストレスと、そのストレスに対して助かった支援・求めている支援内容を明らかにすることを目的とした。

対象は 乳幼児期の双子を持つ母親10人であった。半構成面接法によるインタビューを実施し、内容分析の手法を用いて分析した。

その結果、双子の母親の育児ストレスは、乳児の頸定を境に（ストレスの）質が変わることが推測でき、出産～4か月・5か月～12か月で違いがみられた。出産～4か月は＜育児に対する指導への戸惑い＞＜睡眠・休息の不足＞＜授乳の困難さ＞＜育児への負担＞＜外出の困難さ＞＜サポート体制の不十分さ＞＜経済的負担＞＜発達への不安＞＜上の子に十分対応できない申し訳なさ＞の9カテゴリー、5か月～12か月は＜思い通りにならない育児の負担＞＜外出の困難さ＞＜サポート体制の不十分さ＞＜離乳食への負担＞＜自分の時間の確保困難＞＜経済的負担＞＜発達への不安＞＜上の子に十分対応できない申し訳なさ＞の8カテゴリーの育児ストレスが抽出された。

児の発達に応じて母親の育児ストレスに特徴がみられたことから、その時期に応じたより具体的な支援内容を考えていくことが必要であると示唆された。